

大型倉庫建て替え

庫容量2倍 震災復興需要に対応

第一貨物 第一仙台支店

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)は1日、仙台東支店(仙台市若林区)の営業倉庫をオープンさせた。既存の倉庫が手狭なために建て替えたもので、保管面積は延べ4565平方メートル2倍になった。一時保管施設の併設により、特別積合せ事業とロジスティクス事業との相乗効果が見込め、宮城県内の総合物流拠点として顧客ニーズに的確に対応

していく。同日、現地で竣工式を行った。

新倉庫は同支店・ターミナル棟の東側に新たに建設。鉄骨造り3階建て(中2階)の営業倉庫で、延べ床面積が5283平方メートル。また、一昨年の震災により、旧倉庫もタクトが天井から落下するなど一部が被害を受けた。復興需要による仙台地区の貨物量増加に対応すると共に、安全・安心の施設が必要と判断し建て替えるを決めた。

食品メーカー(日本食研)の東北二円への物流サービスを担ってきたが、業

70平方メートル。食品を保管するため、防虫や防塵(じん)設備、最新の空調機器などを配備した。建物の床荷重は平方メートルあたり1.5ト。荷役用エレベーター1基(積載荷重3

ト)と2パレット型の垂直搬送機1基(2.5ト)を設置し、省エネ対応として照明は全てLED(発光ダイオード)を採用した。また、監視カメラ16台を設置し、社員のセッケン着用(部外者の立ち入り禁止)など、セキュリティ対策にも万全を期している。

台東支店倉庫も被災した。一部は別棟で対応してきたが、顧客から拡張の要請があった。仙台地区は物量が増加しており、仙台東支店とのシナジー効果も期待できる。顧客の物流をサポートすると共に、震災からの復興、地域経済の拡大に寄与したい」と挨拶。

また、一昨年の震災により、旧倉庫もタクトが天井から落下するなど一部が被害を受けた。復興需要による仙台地区の貨物量増加に対応すると共に、安全・安心の施設が必要と判断し建て替えるを決めた。

高床式(フラットホーム)の1階倉庫は保管面積が2195平方メートル。トラック5両が同時に接岸できるパースを設けた。3階は顧客の日本食研専用の倉庫(物流センター)で、広さが23

平方メートル。食品を保管するため、防虫や防塵(じん)設備、最新の空調機器などを配備した。建物の床荷重は平方メートルあたり1.5ト。荷役用エレベーター1基(積載荷重3

ト)と2パレット型の垂直搬送機1基(2.5ト)を設置し、省エネ対応として照明は全てLED(発光ダイオード)を採用した。また、監視カメラ16台を設置し、社員のセッケン着用(部外者の立ち入り禁止)など、セキュリティ対策にも万全を期している。

日本食研の三井賢二・東日本営業本部長も「第一貨物の震災時の対応に感謝している。インフラが崩壊する中で、商品を届けていただいた。良きパートナーとして、今後も保管・配送業務をお願いしたい」と述べた。

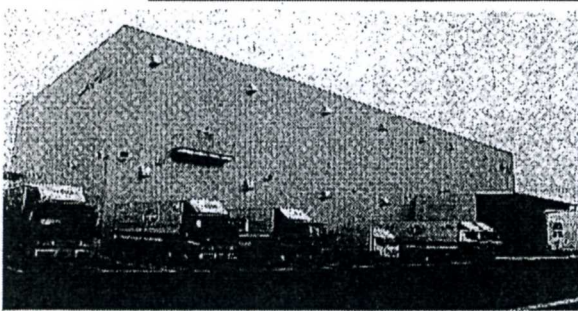
また、一昨年の震災により、旧倉庫もタクトが天井から落下するなど一部が被害を受けた。復興需要による仙台地区の貨物量増加に対応すると共に、安全・安心の施設が必要と判断し建て替えるを決めた。

高床式(フラットホーム)の1階倉庫は保管面積が2195平方メートル。トラック5両が同時に接岸できるパースを設けた。3階は顧客の日本食研専用の倉庫(物流センター)で、広さが23

平方メートル。食品を保管するため、防虫や防塵(じん)設備、最新の空調機器などを配備した。建物の床荷重は平方メートルあたり1.5ト。荷役用エレベーター1基(積載荷重3

ト)と2パレット型の垂直搬送機1基(2.5ト)を設置し、省エネ対応として照明は全てLED(発光ダイオード)を採用した。また、監視カメラ16台を設置し、社員のセッケン着用(部外者の立ち入り禁止)など、セキュリティ対策にも万全を期している。

武藤社長は「震災では仙台地区の総合物流拠点として顧客ニーズに



宮城県内の総合物流拠点として顧客ニーズに

(黒田 秀男)